

横浜医療福祉センター港南を受診された利用者さんおよびご家族へ

【研究計画名】 ボツリヌス療法と外科的痙縮治療を併用した脳性麻痺児における長期経過について

1. 本研究の目的および意義

脳性麻痺の痙縮治療として、筋肉の緊張を緩める薬(筋弛緩薬)の内服やボツリヌス療法があります。また、痙縮の範囲や重症度に応じて、バクロフェン髄注療法(ITB)、選択的後根切断術(SDR)、整形外科手術などを組み合わせて行う場合があります。脳性麻痺の利用者さんの成長過程で痙縮による関節拘縮などが生じやすく、股関節脱臼・麻痺性側弯症などの合併につながる可能性がある為、できるだけ早期から痙縮治療による介入が必要です。

本研究では、当センターのボツリヌス療法外来を受診された利用者さんの内、ボツリヌス療法や ITB 療法、SDR、整形外科手術などを併用した利用者さんの臨床情報を使用します。長期経過を分析する事で、それぞれの痙縮治療を適切な時期に組み合わせて行う事ができるようになり、痙縮の予後改善につながると考えます。

2. 本研究の実施方法および参加いただく期間

対象となる方

2016年6月1日より2025年11月30日までの間に、横浜医療福祉センター港南のボツリヌス療法外来に通院し、痙縮治療としてボツリヌス療法を受けた方。

研究方法: 診療録の臨床情報(年齢、性別、診断名、各種検査結果など)を使用します。

研究期間: 2025年12月1日より2028年3月31日まで

3. 研究実施機関

横浜医療福祉センター港南

4. 個人情報保護について

利用者さんの氏名など、本人を特定できる一切の個人情報は調査対象ではなく、個人情報は保守されません。

5. 研究に関する情報公開について

研究成果を、国内外の学会、学術論文などにより公開致します。公開内容には個人のプライバシーに関わる事は一切含みません。

6. 費用と謝礼について

過去のデータを使用する研究であり、新たな検査、費用の発生や謝礼はありません。

7. 研究協力の任意性と撤回の自由について

本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受ける事は一切ございません。

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお問合せ下さい。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

照会先および研究への利用を拒否される場合の連絡先:

社会福祉法人十愛療育会 横浜医療福祉センター港南 神経小児科 尾崎文美

住所: 〒234-0054 神奈川県横浜市港南区港南台4-6-20

電話: 045-830-5757(代表)

研究責任者:

横浜医療福祉センター港南 神経小児科 尾崎文美